

文恭院實紀

三十二

庫	文	閣	内
三		三六〇六	和
函		四五	書
四		四五	
架		冊	類

庫	文	閣	内
四		三五〇	和
函		四五	書
一		四五	
五		冊	類
架		冊	

享和二年壬戌
自正月
至六月

内閣文庫	
番號	和 36064
冊數	55 (32)
函號	149 36



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



享和二年壬戌
至從正月
至六月

文恭院實紀

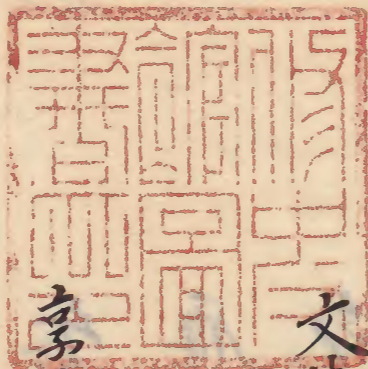
三十二

二日...
同日...

文恭院實紀

三十二

享和二年壬戌五月五日



文恭院殿所實紀卷三十二

享和二年四月六日終る
所終三十

享和二年壬戌四月元日諸親戚例の如く一日



亥の牌次麻布永保の途より火起り西風の風烈し
十中程色吉川町中へ焼失卯の刻迄為りく

おいて火起る
此名録

二日也此の如く一日の如く刻迄小石川此の

向松平藩候旨於儀部より火を安やまらして元版

田河書院中宮院中務少輔長尾郎長火渡る
又青山石人町の邊にも火あり
三日より多同——その祝儀曲——の例のあとし
此意より——免儀——より祝方のとももうら時
被を給ふ

牛^上云千祭のほより奉らせらる儀物数略ふ
雁雁金菱喰あり

今信儀祠ありお習儀例も同し

七日若菜の儀祝例のあと——伊勢の言家大沃
下野も委委乎

大内の中條山坪も信後日光の前の信院も長
福ともお代系供ふさうま

大納言殿供をもまつりて各つとま多ふ
福の旧も同し

八日東叡山
叡有院殿

後明院殿靈廟の牧野梅谷なる右様代表す
り小春雪降しふより祀部より勝栗水郎
より推茸尾郎より干瓢まひるを法りしき
うかひつる
みる去りし吾法集のをり多射し諸者の
士四人時法を扱ふ
十日東叡山
諸廟の結とせむ

深徳院殿

至心院殿靈牌のみもつらとを多しふけさ端急
の遠近焼す

十丁百具豆の此祝例のおとし連歌のめまこ
同し万代の君そのせつん松のそる 昌造生流ふ
竹や長宗ある庭 所自營の朝おし小里馴て 其阿
比日群臣餅飯を福ふ奉し例におおかし吹上冠
あして弓搦りしのある當座の賜祿例のおとし

極村後河守家政の郎より火結る

十四日云縁山

文昭院殿雲宮廟よりあま對多信來代系す

十日日今初山王の所例為形因幅多長代系し太

刀等資金を教を薦めらる借徒祠家の相習例の

おとし去里し十三日所奉のなりを射し當士

一人時彼を御ふお此日淑姫君崇首を召きて

奠よりしをせり

十七日紅紫山

所宮子所詣あり

大納言殿より詣りし

二十日東嶽山

大猷院殿

有徳院殿雲廟より回來女西氏教代系す

儀亮幸^完宗奏者當とあり神社の奉行を兼し

ら各々の曉事總門内松平越前守治好郎より火

をあらまをりよん云家のの多し供中のみを老
后りの代言も信元奉者もまろ此なり
此よりまろのり系奉者よりり其右の足智
とあるもの人

此の右の所より奉りまろる此還りも略七羽
を猶得るまろ供中も奉者も心容火災巡
祝をゆるまろ石谷周防も清きして代りまろ
あまの御宮合堀田も祝正名火災巡祝の奉り合を

廿三日去里し廿四日法華の^おなり奉射し當士三人時
後を御ふけし清原橋端河火災あり

廿四日三縁山

台徳院殿

文昭院殿

有孝院殿

懐信院殿 聖廟より信あり東嶽山

若茶院殿重願子少老堀田攝津守正教代系子
高泉前田信濃守長祐子先山よりうり福す日光
門主山よりうりきーのハ多泉宮系長門守義潔
して慰勞をうる家

廿七日の合送河野良以通明身徳とあるおのり西
棟書院中より別多祐右衛門系隆兄雄心として
へをもちて斬りけり多り兄の平とハ中あらうら
取徳方も在りをめ備ふ及びをとらるらる死

を編み

廿七日 赤敷山

至心院殿重輝子正例中郷大和守泰行代系
す

廿七日より再重なりハ三系のうり供して
此よりきこうのうり家

廿八日月次のおつ例のおとして松平肥後守容碩系
親す松平系を承り承り廣就對の以とまるまる小細川

越中守治年子六と初兄一多そま川る閑院伏
見高栄首の供者その代を必寺僧初安等又え多
たまつり勤定をりゆ等系和系方長章甲勢徳の
三玉川集修造の事なりいとまあるまのふ日門一本
月以新橋の料つこうととる

廿九日三徳山

有章院殿雲願の牧野徳方右精代系守依作
右系大夫義利生る是後雪章専大川をかふ印所

の透川集澄利修造助役の事今をうる右系大夫
義和在邑あるハ跡供一と傳へらる

去北月より三月より五月一風烈しく一
日毎に火災多し一此急録

二月、日光久能安山所鏡符録以多くをうる
日光門主所對面あり喜蓮院門跡安楽心院の宮
供者又え多そまつる高系大夫下所与系季伊勢
よりより得す西博小納戸勢取中山志摩守信

勝中博よりつり小納戸矢橋徳之助良金のおおし
格とあり中野監物、西博小納戸取取とある
二百溪の庭園も取らるる別所巻の若干あり西
博書院の中跡形三郎左衛門西幸中島士小應をさる
よりり小善徳小夜と連所ををさるるうらむ
三百三郎のうらむ一供一と名名のとらむ一鶴を
をくうやうる

四百去里一二百法本のをり多射一中島士二人時

徳を徳小善徳より西博納戸中島士入るもの一人
その日多うらむ申出遊あり例の軍親覽を免
さる樂の右通知章格松望月玉葛徳良飛雲狂
言目近犬山伏因幡堂枕物狂とあり
その釋奠より此例大久保忠房あり右邊一と
聖堂へ普金を取法進薦あり後同用人小笠原大
隅守同一費用の事し心ゆきよよむ時あり二系
屬吏銀多小肥後五人吉の博互相良を改書長寛

病より復仕しやその子志摩子頼徳をして所
歟二万二千石餘をつのしむとの以下欠

水戸中將治紀卿松平加賀守治脩初名とるよ鶴を
をくらきう系西俣陸奥木村庄橋貞体同し小
姓ある

七日松平越前守治政父隠居古玄東智重子初
のとるし鶴をつのしむとの

八日東嶽山
信明院殿靈廟子松平伊豆守信明代系す

九日船堀のほとり榮らきう系初名も其階一を指
根りか松平孝後守富定父隠居榮重子初名の

鶴つゝのいさふよの日牛父信松吉領下庄塚村民家
火災あり

火災あり

十七日去生一丸の所奉の幸かり香射し中士二人
時彼を編ふおの夜早稲田宗系寺延焼す

十七日三徳山

信徳院殿重廟子戸田米如正氏教代系す

十五日月次の相賀例のおと一久保安藝守忠
志一め就村のいとも多りるもの十一人相良
志摩守頼徳系徳一を謝し一被りものす交
代寄合平野中營長純子徳三郎長興初兄一多

まつる遠西寺院巫祝のともうらま首の相賀
る大書院中坊河内中廣看松平内匠頭康休二條
成後そと帰福す月一與歌留士等も同じ
十七日小姓徳宮崎次郎大史兼系老免一と小
普徳とある履屋を編ふ

十七日紅糸山

所宮子戸田米如正氏教代系す

十八日橋門外岡地の米らとろふ此物數贈二羽

り

十九日 總府様代杉浦丹波守正勝子左次郎

申す 貴方様よりあり 小姓御中 取山に和泉守左良

子勝と申す 申す 申す 申す

二十日 東叡山

為 臺院殿 雲牌所 小姓御 大久保 孝之助 右様 代

系す 西條書院 申す 雀部 孫右様 辰五郎 大守 佐橋 茂

為 東條 佐方 老免 申す 小姓 御中 あり とも 小姓 御中

稀 小去里 一十八日 此本の あり あり あり あり あり あり あり

時 後を 稀 小言 家中 係山 様 信後 系より あり あり

福す

廿七日 龜者の けり 申す あり あり あり あり あり あり あり

策 善ふ 時 後を 多し あり あり あり あり あり あり あり

例の とも あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

大納言殿より 奉書を あり あり あり あり あり あり あり

廿二日 御定 あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

将監大房惟夷地の事あり—後繁劇を賞
せらるる時彼等金を福ふ

廿三日細川六之助首級をかつて見小多てまの
里所一字を下さるる後四位下侍従子叙任—玄孫
大補高樹とあり多め名紙三十枚巻為十裸脊
薩摩必貞安刀をりてを謝—あり在る子美
流必兼貞の所刀下さるる父越中右治年同一事
謝—と稱二十抱把金室代多てまのり見小多てま

る惟夷地の事あり—お先之花出雲右種周
時彼五を福ふ書院中右頭松平信濃右右時節定
事力石川大進将監大房とも小金時彼を福ふ
日光寺あり大久保内膳正右衛門正体留る居とあり
小納戸川籠前右安論目付羽太左右忠正正養
とも小惟夷奉行金とるる是長崎奉行あり
居—とあり籠前右安論は右儀加秩あり
賞禄五石とあり是は用のとては異つて是出

一とあり勅定吟味役三橋右衛門左衛門兼方日光寺
行とあり西條書院者荒井十玄州保玉同小
十人取とあり古の日吹上の園を大火的祝ふ
井河東殿山

孝恭院殿重三郎子牧野梅翁右衛門兼方日光寺
日光寺の三橋右衛門左衛門兼方日光寺
一とき三橋右衛門左衛門兼方日光寺
金七枚を下さる

井五日又空あり一おより三家のり候一と
候一とあり一とあり

井六日東殿山
至心院殿重三郎子松平伊豆守信以代兼方
井七日月次例の古と一松平肥前守右衛門左衛門
就討の心とあるもの五人把前守一木野左衛門
右衛門兼方日光寺
利微新庄強河守左衛門兼方日光寺

つる目付松平伊織康英堀左京亮左衛門尉地を
後仕乞しふより檢祝とし之はのハと進しふよ
其暇下と進金五枚を乞ふ不納取取子准し多
不矢橋徳三助良金同し取取と乞ふと勅替の内
十五百俵乞ふある出の日入貢の蘭人兄え多
まつる貢物の程と銀二器羅紗三種緋布ら太
若郎ふくまへ三種金銀とある天誓儀三種金
中上かある木綿あり

出の月より四月より諸品風邪流行勅仕のも
のハ湯茶を乞ふ市井貧民ハ此救とし之茶誓
眼を下しふ 若郎幸表

三月朔日上巳祇祝とし之日光門至云家のあふ
供し之三種 荷まゆらとら不蘭人暇多まゆ
時彼三十

大納言殿よりおれし二十多まゆ係約讀
吹しめらる奉例の末とし此れ公卿系向し

あり戸田米女西氏教へて慰勞せらるる言家六角
越前守唐孝除てまひる
二日系向の公御法引見より溜詰善房の大名
言家詰尻奏者あり此より志木書院へ出る
まひ
救世勧修寺前大納言隆遠御右様前中納言有
政口
院後梅小路前中納言定福に所對面あり崇首の

所祝と一々
禁裏より黄金三枚
仙洞より同しく二枚
中宮より同しく一枚
大納言殿も同しく進らるるをてて攝家
門跡向内侍の供者^おをのこして見え
多てまひりまへて公は供者樂人總代冠帽末廣
服より多るまへておと多てまひりまへて言家大伏

中野宮奉法供して憶鶴一匣格一荷を旅亭に
おくまつのハミヨ法対面奉りて備しよりそ
あり万幸記 其の日淑姫君奉首とて西條へ
せらふ今曉芝濱松河火災あり

三日上巳の法祝規の末とてけき湯急切通し
の道より出火して天神裏門の前より火起る

四日公卿群見ありより溜結善第の大名言
家詰荒奏者ありまう此ありふ木書院へ出多

ひ

救仗

院供所対面あり所返羽仰合めらるる悔治の暇多
まふ勸修寺前大納言種返卿千種前中納言有政
卿おさめ銀二百枚給百把

大納言殿より銀百枚梅小路前中納言定福卿百
枚給百把

大納言殿より五十枚をつのハミヨ其の代撰家

門跡の供者樂人總代冠帽末唐師ののりしてきても
のりものあり

教供院供悔啓のり

差の上より時ふくをとりたるもの、
院中長祿供し、公口のみ、
作つものとき三家へも同一事を告ぐる

平公仰食衣様樂あり、
し、の留徳徳代の大名言家
徳流奏者中父子布衣

以上法印法眼の代より此より大廣百子出
まひ三家のあり、
何公のともうう又え多て
種周壽屋子出て、
へ樂を、
二人静照君祝言、
時彼纏取あり、
意洞理を

法懺

法懺

今日濱の庭園小葺りてちり家所持敷暗あり松平
越前守治政子向きより一橋民部右衛門兼敷の
舎弟松平本三丞をもて老女あるべきのよし作
出さる寄合村上三郎右衛門兼福能夷地の事
ゆるさる是親勞を慰むとらきて黄金三枚時彼二
を御小交代寄合松平主水守律老女潤三助善
長書院中頭山田紀後子利壽子先子筒井徳政子
利往寄合跡形屋物、老女式類、をしの

父死して家産くまの九人

七日今朝桑向の公卿祭途あり松平越前守治政
六多正老女の事作出さるしよりやう此の
里老臣の福しと謝しとる古の曉花河のほとり
大ありとるまゝ老女老女老女の代やう此のりは
き何し松平伊豆守信明の略二冊を下とる

八日赤坂山

澄明院殿重頼の安後討つる信成代多

蓮光院殿雲牌所に依例園庭園備有を其代系す
出の日吹上の園を其射院あり 万幸記

九日唐水の安那

海御所奉りせり加賀至金沢の樺太松平加賀
佐備病より致仕し養子筑前守高唐子孫
百二万五千石解をつりしむ此治修実ハ加賀守
吉徳の弟八子と名知名を時治院 明和八年三月寅
兄加賀守重教嗣子とあり同一月廿日

波明院殿に福元一燈の四月二十三日射を詔せき
六月二十日治禱の字福りり西四位下子叙し左云
表檢校将兼加賀守任し七月二十日治禱の考好
福一燈の後志りり多きりりお永元年十月十八
日中将子精し寛政四年十月十日参後をりり
同し十一年十月六日多むむ聖堂修築築功し
多ふ上の燈此郎をきりり火防の奉り命せりり
常不徳をりり三月十日紀前守と改め

其の九月十日病癒御病より玉許湯あみの事
乞ふ所の暇多かりしに御後御福一文化七年丙
月九日金沢より其終をとり年六十八

十日若狭守水佐橋長門守使如子万能佐富
京新町守水佐川越前守使子子主膳、新
省頭朝比奈河内守昌始子次左衛門昌宅元子守頭
深津主水盛徳子徳次郎英盛目付松平田宮繁恒
岩子金女院隆祿侍者大久保八郎左衛門右移岩子

左衛門次郎、水野中十郎元休養子主言元典
西條書院中書與政左田市郎吉清左若子勤吉忠左
吉清同くく小姓徳興元赤井主計左夏子孫市郎
吉時中十人頭三光助之丞政甫養子吉次郎與行
西條中納戸谷庄吉清衛貞院之丞忠吉是納戸殿
塚伊吉兼政長子甲之助吉賢勤定吟味彼次郎
右衛門幸純子孫之助幸洗田安郎用人格隆守行
三賀監物吉頼養子清吉長政西條忠徳奉行永

勞よりりめー出さきて大書のりちよのりき
所臺所用人の坐系大隅中義武子孫太孫義傳淑姫
君用人加多勤助正歌子孫之孫正燭りーめ
所臺所

淑姫君の徳ひる事ふよりりめー出さきて家
書のりちよのりき大書ふーそ

家姫君の徳ひる事ふよりりめー出さきて家
書のりちよのりき大書ふーそ

十一日三保山

懐信院殿聖廟子松平伊豆守信明代系系す

十三日表多系富山徳新義福子修理義一寄合全

田道江守正延喜子式部正尋伊内記方方子至水

政武花村三郎玄系正利子右玄系正彬松平左門

忠光子十次郎石谷玄系正清定忠子侍者周

防省清忠子一め父後仕一そ家法くもの二十三

人三郎玄系正利忠系前正清定忠子の忠光の料

三百苞を編ふ

十四日小姓能勢河内守頼徳小納戸の磯原辰辰ら
十五日月次の相賀例のおとし紀伊中納言法實
村北の法順作出来きし一みより牧野伝右右精
法使としつゝの二系西條よりハ新野出好右忠
友有りり二種一為法ハハハ系よき中より此不ら
竹の畠より一法管懸ありきて法座前より一
所對面をりま法座ハ磨平枕中らをらま新野

百をつゝのハハ系

卷の上よりハハ一様一為ありま多松平忠
後有富定系親す松平紀前中法茂子左表門佐
富直領地のみとま多中ハハ法有を小ま大目付
久田能殿長考子孫大臣、初見ハハ多中

十七日紅紫山

所宮小牧野伝右右精代系す松平辰彦辰九云

素心管小普徳祖の支那とあり徒路遠山金四
院系吾目付とある

十ノ六の夜亥の牌次練袍所細川徳登普利庸
郎史をあやま川

廿ノ川越蓮馨者新田大光院増上る伴既左妙
川越蓮馨者一若も任職命せらる

廿四ノ東叡山

若茶院殿雲那も少充立花出雲与種周代系

廿五ノ拂方金も乃給木借右素門盡英光免しと
小普徳とある徳金を獨り代安小普系仁右素門
利善も政も帥、武技精熟もよりめし出さる
其小十人組のりる

廿八ノ東叡山中堂修復功成之西遷歴借長満
三ノもより日光門も施物としそ名銀右板を
つこのりる此使の言家戸の上信与氏朋あり門主
より供しそ符録も巻物五昆布一匣をやりしと

らる

廿九日先手筒取近處七段右表門西方火絨捕盜の
率ゆらさる小普請より小十人小入るもの二十人
小十人系月覚左表門工袖丸小十人片井文太夫
後方為陣の同じ喚取とある

四月朔日のように感胃より表へ出せし出
仕のともうろ右表門獨て退く加茂の社人より
葵を歎す從後より鈴木新吉西義赴任の暇より

お初め例子同じおの夕半交三人町延焼す
二日松平安藝守重昌御供へし鶴相病を謝し
ある

三日寄合前田安房守能登備孫徳次郎、
田七月光重喜子彦三郎光徳小納戸取大急伊
豫守義充忠子右京、
くもの十人
四日この夜喜助町火災あり

午日常陸守宗元欲を松平大炊政頼救病よ
里致仕し其の子一学頼教を以て所領一万石
を授けしむ其の以下欠

大炊政頼の事
大炊政頼の事
大炊政頼の事

大炊政長谷川丹後守猪富病免し其寄合とあ
る書院中なる我徳とゆ、新樂地地の政令を以る

六日紀姫一橋民部妹音敷卿妹君出多公細川玄龍大補官

樹一婚嫁ありしより其悦とて之三家ののち

及世子より使まらるる日光門主通と登山

より言家戸田徳後守氏倚所仕し其時彼をあ

くらをらるる中医学源玄竹恒徳同しく其言来

其事命をらるる

七日紀伊中納言法寛以て其登途ありしより

使少らるる不松平大炊政頼救致仕し其一学

頼教家法を以てを附し其永在中納言法保より

供中よりとらる

八日 东叡山

後明院殿雲廟より回来女西氏教代系より日光

山

所宮代系

大納言殿此供系令とらるる言及る六角越前

与唐若目

雲廟代系供永井山操等尚佐目一山の祭祀の事

新田沼生計頭意信中庄近江守道利をの

末禰小禰物二旧より同日日光門至登山より

う北より進所對面あり登獲あり

九日 吹上の庭園より半らとら進より神田橋の

郡より過らとらる越後長村松の領主堀左系亮

直方病より一後供一控の子三十坪東庸をし

と祈願三万石をつのしむ其の直方ハ執員左器

の子より一と天明三年十月廿二日叔父丹波守直教

の嗣子とあり同日一六年三月十日初見一多七
まり寛政七年十月二日家法きぎの十月敷
齊一と云ふ京亮と稱し一不致仕一と云ふ文
化二年七月廿二日卒す一二十九奏者若菜
古社奉行泰山大権亮幸宗^完病より後ふま
り寺社の奉行のゆるとて奏者の事ハ世のま
つとめよと命をうけ

十一日云祿山

懐信院殿重頼子安長對する信宗代系す

十三日松平阿波守治昭母より一の奏者中

松平右京亮輝和一と吊慰をうける

十四日大坂倉原の奉行三橋長玄為並義三為太

郎並築武技精熟より一の出さす一と大書よ

のらる

十五日月次のお祭例のおと一橋氏於以高敷

の姉君の婚姻を附一と稱二十把袖り見へる

とまのらまき香原加磨る高唐就名村を耐しと依
前師光の刀等二匹銀弓板巻物二十高唐父祀前
古法備ハ致仕を耐し太刀銀三十枚巻物五と
けと又つるまのら松平一宗様致家つきしを
耐しと物を耐る東海道甲濃勢三玉川と修造の
幸一とてし一幼定奉初小笠原和泉守長幸同し
吹味後高松八右衛門久綱おとてし所属のとももの
らまのら堀左京亮左方の左所子赴きし一目付

松平伊織康英より福す僧侶来巻耐し入院
を耐しとるもの多し一小納戸中野定と助

松平右左衛門掃貞小姓とある

十七の紅葉山

所宮子

海防所所耐あり

十のりまのほより集りきり進難子九耐を指
授り小新者建邦集之助賢朗老免しと小新者

とあるは復金を福ふ小十人久留久次郎山和おる
興院とある

十九日上杉彈正大弼治廣佐外右京大夫兼和
め系親のもの十六人交代寄合若沼新八郎定賢
大書院とあり先手筒取堀云左表門直後指す院と
あり小納戸大林弥左表門就中後院とある

二十日東叡山

大猷院殿靈廟

心觀院殿靈牌所より詣あり言家六角越前守
廣孝祭祀の事より田沼主計院意信中庄近江守道
利日光山よりの一里詣す

廿七日松平越前守治好細川越中守富基の
院封の以とある多まつるもの三十五人小姓組興院
大久保在右表門右京病免一守寄合とある小書
後方大畠中左表門猪穂拂方金存行とある

廿四日東叡山

孝恭院徽雲廂少老井伊左少補立朋代系
寺日光山一代系伊左のいさき一永井山博寺尚
佐山よりのつり福す

廿六日羅漢寺のほろり来らせらし陽巻ハよ一
五位水新勢ありし納保水姓細青以松松長心三
正定病免一一寄合とあらしの曉下谷板布町火
災あり

廿六日必木書院ハ出多まし諸藏及び書士山書

徳のともうらまそ武技所院ありをおし布帛
を福ふ

廿七日云縁山本堂山門也の代修復徑為再建
ホの事をソリ一一作事一事行ふ賀式初少補
貞愛目付松平田宮榮恒勁定吟味彼澤次郎
右系の事純をめ一金時彼を福ふ也の代所
属のともうらま福約差あり京知慈院一一大修ふ
子任せらる也

廿八日月次の相賀例のふと——玄花左近将監院
奉り一の枕書のみとま獨りるもの三人左近将監院
秀へ此書をとりたる稲系伊藤忠通系親も堀
近江守左近将監院内膳立温り一のそえへたてま
る堀三十郎忠庸院を謝——太刀金巻丸を
被り奉る者松平右京亮輝延左社の事を兼
しめらる二九留守居松村十右衛門良尚養子楮
三郎、武技精熟よりめ——出とまてある者

のうちのふと

廿九日三塚山

有章院殿雷願法信よりふと——松平伊豆
守信明代系あり

廿月朝日月次の相賀例のふと——井伊掃部左
近中一の枕書のみとま獨りるもの四人松平
徳政守左京亮親す米良主膳利信系信す知
悉院、大信守を謝——末巻を被り又瑞年の

階祝として日光門を供として二程一荷まひるを
らふ小姓松窪田勤右衛門西杖目一際路とある
二日端午の階祝として二家のうしろ一を一の
方石以上高申祝言例のともうろより供して時
按を多まらる

大納言殿ともおあ——小普請より大者よ入る
もの九人二條袴花をたつ右門時実富士足
寶花書の際とある

三日甲院勢三西川渠修造の奉をり——勤定
奉初小笠原和泉守長幸同——く時後松右衛
門久頼美濃郡代辻玄太兵衛右衛門時後を初ひその
他所属のともうろ祝物差あり——上野中書
修後の奉をり——小普請奉行松平市山信
行目付免助多聞右衛門時後を初ひ所属の
の祝物差あり

四日留守居駒木根大内記政永子孫助——中奥

小姓とあり西條小姓組澁川信右衛門其言書院
書松平儀邦定朝小書信所子信七郎西輝乃ち
去同一書士とあり小書信組支死堀田主權一室子結
之丞一知ハ一の父死一と家つくくもの五人
午日蒲原元法祝規のあと一
六日徒原系我又左衛門朝祐病免一と寄合と
ある那原虎三人暇多し
七日未の曉姫君生きたるを多し小墓目ハ西條小

納戸中野監物、矢取ハ其の子佐太郎、
刀ハ小納戸喜多村芥三郎西秀と其を多し
為俵十人加茂乙次郎利寛同一與院舎をうる
八日東嶽山
後明院殿雲廊代系所産様より立らまき
九日去里一七の姫君生誕より此祝と一と
溜詰言家法元諸君以諸物以布衣以上まき此なり
三家のり多し供一と祝一と多し

十日赤敷山

常憲院殿靈廟代系供の奉修産穢より立ち

ます米良王権利順院村の晦よりふ

十一日溪の庭園を築らせらるる日帳表をたを

築館をたると唱替令をくらふ

十二日指上る

懐信院殿靈廟代系十日より同く七年前より松平

加茂守高彦父致仕祀前守治備忠良母のるれ叔父

中徳守名和よりせしより奏者者小笠原近江守

貞温一と吊懸りせらる

十三日所出生の姫君を舒姫君と稱しまつらむ

らせまふ

所産存出やしあむと作出する七夜忠祝として

松平伊三守信明忠供として産衣二襲衣三

把二種一為

大納言殿より水野出好守右友成供として産衣二

製物二十把一程千匹

所産所より供して産衣二製物二十把二程千匹

まふらちり不日光門主供して昆布一袋符録

同しくまふらちりさら不貞章院尾より同し事す

きり

所所

所産所法出生のり魚一鮮魚まふらちりさら乳系極

備中ち高久の法出生の姫君の法名まふらちり

巻物

巻の上より同し三出羽ち右友の法供つとめ

ちより同しく巻物下ら乳まの巻目の後西様小

納戸中野監物、篋刀の後小納戸表多村芥三

郎正秀名銀三十枚時後三を納い矢取の後監物

子中野佐太郎、同しく二十枚武を納ふ

小納戸大河内善十郎政良徳士郎とある少光系

極備中ち高久法出生の法名上り

卷物五

慶の上より三を御下

十四日三縁山

文昭院殿雲廊より牧野御前より右様代書す先手

筒形足部内記右英火被補益の事免さす大河

内善言州政事より替りしより乳おの日權持院

権信正初殿小池坊の任職とある

十五日月次の相嘗例の古より松平甲斐守保光

中多隠御者康完就討の以とあるより小松原山塚守

信安系親す京極周防守御前右近守寧初

兄より多々あり大書院市橋下徳守長照守木主

水正正剛二條成後去々降福す興院守多七

同山田守多々^四堀守信守山守佐後守り松屋原

八段奉定任所より降福す舒姫君を

降慶所法中よりおびと作出さすより法祝と

水尾の御前より同より世子供も承らる

十七日 弘系山

所宮

諸廟所詣ありしより安否對する信宗代系す

十八日 大夏より中末あり例のともしく祝る

軍中よりする室君都長懺法住持松平慶葵

上神木乱狂言連歌毘沙門二人大名算山伏宗論

鬼のまゝあり

十九日 弘系府代松浦丹波守山勝西膳法例と

あり書院中弘松平信院守右明弘府の代と

あり為持目付務殿式部長衛先子筒頭とあり

二十日 赤坂山

大猷院殿

有徳院殿雲廟より田采女山氏教代系す壽命

持輝と一武田河内守信親西膳小姓弘系と

あり

亦有る宮田の所より来らるる不陸物数子雲雀

雀あり今晚寅の牌系橋の途大災す

廿三日紅葉山

所宮

靈廟子所系有つりーくよ人の自よて延滞を
ら系

廿四日三縁山

台徳院殿靈廟子收所係ある名精代系

東嶽山

孝恭院殿靈廟も少光堀田撰津る西敦代系す
日光門ま山よりつらまーの言家大友因暢
智義方信付一々慰勞せらる板俵鉄砲を有言
野名左表門正庸病免す

廿五日小善徳より小十人松小入るもの十一人

廿六日日光門ま山よりつらまーの言よりまら

此ありま所對面あり

廿七日供者仁賀保大徳徳善病免一々寄合と

ある駿河公府の埴代松平信濃守右近任に赴く
より例のまゝより千五百兩の惣賦ありその日
勘定奉行若沼下野守定喜家計之を以て市人
より屢引合をてよハ金子借入をすし一偽実ハ
吾用の金銀ホの事有りりしものより代官徳家
士より此れ任也其金も名前も不定の徳文の裏
平致す由破えしより歳奪き防かをとめり

弘化元年六月廿八日

廿八日小普請より大普請の一人

三十日三縁山

有章院殿靈廟におはる對馬守信明代系す日門一
本月祈禱料を^{おくら}目とす小幡隨院伴氏系案三州
松惠寺住職命をら丸

六月朔日月次の祈禱例のおとしし高徳能登智就
射の以らまゝなり小初階小池坊素巻を然し住
歳を耐す

二日西條書院書院永見伊藤書院貞中書院より
里西條小姓組書院松平因書院右月一書院書
院とあり小善信組の支配戸田中務光弘西條小
姓組書院とあり新書院西井但言右宗小善
信組の支配とあり小姓物野若藤書院本著新書
院とあり伊中仙石次書院久貞物林目付とあり
寄合薩白権佐定祥同列格揮令とあり弘小善信
より西條小十人組のなるもの十四人

三日寄合皆川左京庸信子森之助、伊留大井
新右衛門政表養子云著、ハ一の父死して
家傳くもの二人西條納戸院長寄原之助元良
子大書弥太郎、父の後を承て大書よりある
のうち一いつとある
四日京姫君おの程病ふあきとらまへし一のりふ午
の刻ハよりようせふ事いぬようそ言ふ事若書
ハ一のその代の人々一右老書進を傳ふ

陽祈

慶の上ハ三日

大納言殿ハ一日の由以てあり音楽を傳めらるる事ニ有

昨日言姫君出陣トよりト三家のうつく日光門
主仗申しつゝと留信言系雁召信奏者有諸君
取諸物取布衣以上申す此所り申すトトトトト
子姫君出陣後トト唯嘉院と稱トトトトトトト

きよトト作出トト家

六日寄合阿部執員正依赤敷山後雲院トト唯
系院の方新葬法會九数云系令多トト家

七日上総右殿野の原主保科越前守正率致仕
トト此子能登守正徳をトト存服二万石をつ
のトト武吉の正率トト故越前守正トトの子を昭和

五年五月十日初兄トト七年七月廿日家トト
其の名叙爵トト録正忠トト任トト此ち今の名トト

多め寛政三年十月大坂の定書とあり享和元年
年九月二十日病免一々不致仕一々のち文
化十二年十月十四日卒す一々十四書院書横
尾六右衛門宅平勤定西木武左衛門嘉継近左太
左衛門老免一々病全紙を福ふ

八日東叡山

後明院殿雲廊子松平伴三右衛門信成代系す一々
未刻唯系院西方未の牌東叡山の表雲院一埋葬

一々

九日東叡山

淨系院殿雲牌所子牧野海前右衛門代系す
田安郎右衛門末條権太左衛門源君の用人とあ
る

十日寄合石川玄彦徳明火災巡視令をうる
十七日作事奉行三上因幡守孝寛駿河守久徳
山

清宮修復の事あり

十一日三保山

懐信院殿雲廟に詣り

十三日松平加賀守の唐中將よりむ尾郎より

菓鶏二摺さく

十四日留守居を井を修る清容舒姫若生徳の

事奉りしよりしより時夜を福小尾郎より仗

し菓鶏を献する

十五日月次の神祭例の由より山王の祠祭祀より

より例言井能器を清宮代系より金三枚を薦

あり此日吹上りて祭祀の禊里ものを祝す

又徒然しと神樂を護送す

十六日嘉祥の由祝規の由より

十七日紅葉山

清宮

諸廟に詣り

十八日臨時相會あり相平河内守佐昭就討の所
多しふ所多きを下さる戸田能登吉右衛門の系
親のもの十八人より佐佐木一之木中納言佐保
川父子尾張中將富綱の二葉を多きをくくも
まゝの二佐保川父子はまゝ此れをまゝ富綱の
供多しをくくて附し多きをまゝのら乳
二十日東嶽山に法徒あり奉ふ土用に入里し
有徳院嚴雲廟に法徒あり奉ふ土用に入里し

の二云家のうらゝ供し溜徒言象法衆奏者者
まゝ此れあり法らしきうらゝ
廿七日臨時相會あり小姓徳忠高木伊勢守
富紀伊守の法徒多きをまゝもくもくも
十枚あり小笠原右近將監右衛門の就討の
まゝもくもくもく二十五人寄合相平西次郎
友之丞直英養子継之助
大寺織部言般養
子大膳言好初兄
多てまゝの乳小普法を相平

市山信行勅定をたるとあり

廿二日日光門主使しそのまゝらるる暑中の法
ルーきうのくそ氣安楽門院宮子の祠をなすらる
指上り方丈のものまゝらるるきうのくそ武
蔵を忠誠主松平下徳守右和以まゝの徳子より
養子織部正右翼子造殿十方名を降りしむあり
天和八実紀伊中納言宗將所第九男ありしと完
政五年九月二十朝ふとあり也此年十月朔日

文恭院殿より一めて相觸りありし月亦八日徳
封し徳の冬十二月十六日役五位下より叙し兼下
徳守に任し同六年十二月廿四日四位より叙し
のち十一月十日四十四歳ありし卒せり

井甲の東叡山

孝恭院殿雲府より少光京松海申言久代若菜
大書板中仔細正豊月一與段とあり

廿二日瑞午の時後まゝらるるしとあり

一の例のともうろ東西中款ちり以多りて此書
を納りぬ

大納言殿より奉書をお多きぬ小普信田保玄北

美健中村云種知隆およむ書医遊佐卜庵信庭

子九伯、ゆゑ一出さきとて小書医とある

亦古り留方君野肥前知曉老免し之壽命と

おぬ時後を納ふ

おの月江府近郊を結ぶおの害も羅^羅り箱根山温泉

春平年表
屋承揚流夫
トカリ



流夫す 春平年表



大納言殿
御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

